

Das Kapital

5月学習会への案内です 第39回「資本論を読む会」

日時：5月26日（木）

午後6時30分 Zoomで開催
「第13章第4節工場」(P401～)



次回は 第4節 工場

大型連休はいかがお過ごしだったでしょうか。4月28日の「資本論を読む会」は“機械が労働者に及ぼす影響”で、労組運動では馴染みの課題ですねーb労働日の延長とc労働強化ーについて読み合わせ・討論を行いました(p375-401)。

今回の参加者は、連休前日という事情もあったのか？常連さんのお休みもあって8人の参加(地方は3人)でした。今回の箇所は難解な概

念論争もなく、比較的順調に進行しましたね。次回は「第4節 工場」(p401-)に入ります。

レポーターも代わってSugiさんをお願いしています(初担当)。※前回のKaiレポートが少し残ったままになっているので、まずこれを消化してからになります…。

夜9時頃からの自主懇親会は、例の如く酒を交わして楽しく過ごしましたが、今回はチョット覚えていませんネ。お決まりのウクライナや参院選などの情勢議論をしてから、最後の方は読書論(あなたの好きな小説家・本は)になったように覚えています。11時頃の閉会でした。

次回からも初参加の方歓迎します!別途お送りするZoomアドレスからお入りください。

☆「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/>「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポーターから--kai

第4編 第13章 機械装置と大工業 第3節 機械経営が労働者に及ぼす第一次的影響

a.資本による補助的労働力の領有。婦人労働と児童労働

◆機械による婦人・児童の拡大

* 機械が筋力を不要とする労働者＝婦人と児童が、男性労働者に代わって雇用される。こうして、家族全体が労働者となる。このことによって、機械は賃金労働者の数をふやすための手段となったのである。

◆婦人・児童労働による労働力の価値低下

* 機械は、労働者家族の全員を労働市場に投ずることによって、成年男子の労働力の価値を、彼の全家族の間に分割する。◀機械は、彼の労働力を減価させるのである。▶

b.労働日の延長

◆機械は労働日を延長するための強力な手段となる。* 機械は、その使用によって摩損するだけでなく、時間的経過とともに、物質的・社会的に摩損するので、資本は、できるだけ短時間のうちに、機械の価値を回収しようとするのである。* 労働日の延長により、(機械、建物に投じられる)不変資本を節約できる。

◆機械化による労働力の減少は剰余価値の減少となる。* 資本は、これを労働日の延長によって補おうとする。

c.労働の強化

◆労働者階級の反抗が、国家を強制して、一つの標準労働日を命令させる→労働日の延長による剰余価値生産の道が断たれる時、資本は、同じ時間内の労働支出の増大、より大きい労働力の緊張、労働の濃縮を、労働者に強要する。①機械の速度を高くすること、②労働者の見張る機械の範囲(=彼の作業場面の範囲)を広げることで、それを実現させようとする。

◆労働の強度の上昇による労働力の破壊→再度の労働日の短縮(8時間労働日、8時間労働制?)が避けられなくなる。

【工場監督官たちの指摘】労働日の短縮が、労働者の健康を破壊するような、労働の強度を生みだしている。機械設備の運転速度が高められ、激しい疲労→(肺病による)死へ。

* 労働時間の再度の減少が避けられなくなる。